

加藤ローサ



「夫からとんちゃんかんた贈り物をもらってしまい困ったことがある、というのはもはや世の妻たちのある事です。だからこそローサさんには幅広い世代から同情が集まり、『鈍感夫によく言った』と称賛の声が上がっているのでしょう」

ローサは同番組で「よい妻、よい母でいなきや」と食事の準備や習い事の送迎、休日の外出などを「家族ファースト」でなし、自我を忘れるほどの毎日を送って

「このタイプの男性は離婚の際も、離婚したら子供と一緒に住めない」と駄々をこねたり、子の親権を徹底的に主張したりと揉めるケースが多い。ですから、離婚届は出すけれど生活スタイルを変えない、紙の有无の間違いだけだと同居離婚を提案し、納得させたローサさんの選択は賢いのです。呆れ果てて元夫の顔なんて見たくないという気持ちもあるでしょうが、子供のために円満離婚へとぐっと踏みとどまったのでしょうか。もちろん、同居を続けることは思春期の子供のメンタルにとっても最適です」

番組にVTR出演したローサは「自分としては（生活は）これからも変わらない」と豪語したが、彼女の心境はまったく違うはずだ。「同居していても離婚届を出すことで妻という役割から卒業できます。しかも妻としての責任感が強い人ほど夫の面倒を見ることから解放された喜びが大きくなる。もう彼のワガママにつきあう必要は一切ないのです。見事に自由を勝ち取ったローサさんは、これからひとりの女性としてさらに輝くでしょう」

新たな道を歩む彼女を応援する女性はいっぱい

「あつぱれ」 「自己満 賢母な

元夫 松井大輔は「生活は変

いたと語った。妻と夫で、見ているものが違うことも、すれ違いの大きな要因だという。

「妻はいまを大切に生きていて、夫と子供に寄り添って一緒に生きている感じがします。でも夫は自分や家族の将来のことばかり考えていまのことをおざなりにしがち。そのくせ家事や育児を押しつけている妻に『いつもありがとう』と声をかけるでもなく、当たり前だと享受する。生活費と適当なプレゼントを渡すことで万事OKだろうという自己満な考えだから、歩調が合わないのは当然です」

15年近く良妻賢母を目指して家族に尽くしたローサが葛藤の末に選んだのは、「離婚したけど同居する」という新しい家族の形だ。

彼女いわく松井は「理由とかない！ おれが言っているんだからこう！」と主張する「俺様タイプ」。雑誌のインタビューで「食べ物が目の前にあると全部食べべてしまう」彼が行きたいところに行けない」と不満を漏らしたこともある。

離婚 元夫と同居生活

「わからない」と豪語するけれど――

「指輪は大きなダイヤモンドが付いたかなりゴツイデザインで、ローサさんが、日常使いできるものに変えたい」と言っても、松井さんは似合っているから毎日つけたいと取り合ってくれなかったそうです。

スマホも彼女は黒を欲しがっていたのに、くれたのはゴールド。表向きは喜ぶしかなかったようですが、内心は複雑な思いがあった

「同居離婚は賢い選択」

積み重なる「がっかり」が夫への気持ちを冷やしていったのか、ローサのインスタグラムで当初は「アモーレ（愛する人）」や「夫」と表現されていた松井は、徐々に「35番」「22番」と彼の所属チームでの背番号で表現されるようになった。

「ローサさんはずっと、自分は大切にされていない」と感じていたのでしょうか」と語るのには、離婚カウンセラーとしてこれまで4万件近い夫婦の問題を身近で見てきた岡野あつこさんだ。

「男性はプレゼントをあげる際、自分の趣味を押しつけてがちです。それが女性には自分のことを充分に見ていない、考えていないように映り、私は大切にされていないと感じるのです」

ローサさんのように要望を丁寧に告げても見当違いの言動が返ってくると、「こんなに価値観が違うのか」と無力感に襲われてしま



指輪をアピールする表情は物々しげだ。（画像はローサのインスタグラムより）

「突然のカミングアウトに、MCの山崎育三郎さん（39才）は硬直していました。でも彼女に悲壮感はなく、はつらつとした笑顔で『一緒に生活は続けつつ、ちょっと夫婦という形を変えて』と子供のために離婚後も元夫との同居を続けていることを明かしました。そんな『妻卒業宣言』に世の女性たちからはあっぱれ！ と共感の声が続々と集まっています」（芸能関係者）

高校3年生のときに出演

「当時フランスのチームに所属していた松井さんは共通の知人を介してローサさんに猛アタック。3度にわたるプロポーズの末11年6月に授かり婚でゴールインした松井だ。

「結婚10周年のときはローサさんに指輪を贈っていただきました。育児であまり仕事ができない分SNSでの発信に力を入れていた彼女のオーダーにに応じて、最新機種スマホをプレゼントしたこともありまし

「結婚10周年のときはローサさんに指輪を贈っていただきました。育児であまり仕事ができない分SNSでの発信に力を入れていた彼女のオーダーにに応じて、最新機種スマホをプレゼントしたこともありまし

「同居離婚は賢い選択」

積み重なる「がっかり」が夫への気持ちを冷やしていったのか、ローサのインスタグラムで当初は「アモーレ（愛する人）」や「夫」と表現されていた松井は、徐々に「35番」「22番」と彼の所属チームでの背番号で表現されるようになった。

「ローサさんはずっと、自分は大切にされていない」と感じていたのでしょうか」と語るのには、離婚カウンセラーとしてこれまで4万件近い夫婦の問題を身近で見てきた岡野あつこさんだ。

「男性はプレゼントをあげる際、自分の趣味を押しつけてがちです。それが女性には自分のことを充分に見ていない、考えていないように映り、私は大切にされていないと感じるのです」

ローサさんのように要望を丁寧に告げても見当違いの言動が返ってくると、「こんなに価値観が違うのか」と無力感に襲われてしま

「俺様」だった夫にびしやりと三くだり半を突きつけた加藤ローサの行動が、女性たちの共感を集めている。思っているよりも、自分の趣味を無理矢理押しつける「自己満夫」に辟易している妻は多いのかもしれない――